

人工知能と脳と心

ポナンザ VS 佐藤天彦 名人



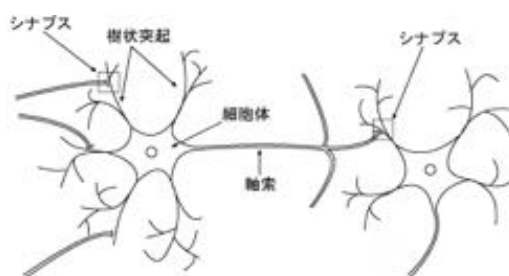
開発者 山本一成

- ポナンザの改善は、シンプルなアルゴリズムによって実現されている。
- ポナンザ同士の自己対戦を700万局繰り返す中で、勝率を上げる手を模索していくのだ。
- ポナンザがなぜその一手を選んだのか、人工知能によってどう言う思考過程によって、その一手が選ばれたのかについては、それを言語化することはもはや出来なくなっている。
- 700万局のデータを駆使して出される一手が選ばれた背景は、ブラックボックス化してしまっている



脳というブラックボックス

- 千数百億個の脳神経細胞から成る。
- 一つ一つの細胞は、シンプルな作りをしており、電気信号をやり取りする素子。
- その電気信号は、非常にシンプルなアルゴリズムに支えられている。
- 脳という総体になると、もはや、なぜ心が生じるのか？は完全なるブラックボックスである。



行き詰まる脳科学者達

- マルチ電極や、スプレッドシート電極を使って、数億個の脳細胞の記録をまとめてとることが出来るようになった。
- その膨大なデータがなぜ心を生むのか？何もわからないのだ。
- そもそも、その膨大なデータの処理方法がわかっていない。



二つの相似

- 700万局の棋譜という膨大なデータと、数億個の脳細胞の電気信号のやり取り。
- なぜその一手なのか？と、なぜ心が生まれるのか？



ハード・プロブレム

- 心理哲学者・神経哲学者の、デビッド・チャーマーズが1995年に提唱。
- 脳科学の進展で、一見色々なことが明らかになってきているように見えても、その実、重要で本質的な問い、すなわち「ハードプロブレム」についての答えは何も得られていない！
- なぜ、「私」が存在するのか？とか、意識とは何か？とか、脳の働きから、意識が生じるのはなぜか？



モノがどうして主観を産めるのか？

- 脳細胞の働き、電氣的なやり取り
 - 言語化可能、命題の形に落とし込める
- 自分にしかアクセスできない主観的な感覚
 - 言語化不可能、命題の形には出来ない

脳細胞の働き = 主観世界

ブラックボックスは神の存在を示唆するのか？

- いつの日か、なぜだかはわからないけど、ものすごいデータベースを利用したら、「意識」がマシンに生まれた！という日が来るのか？
- しかし、その日が来ても、人間には、なぜその意識が生まれたのか？を言語化することは出来ない？

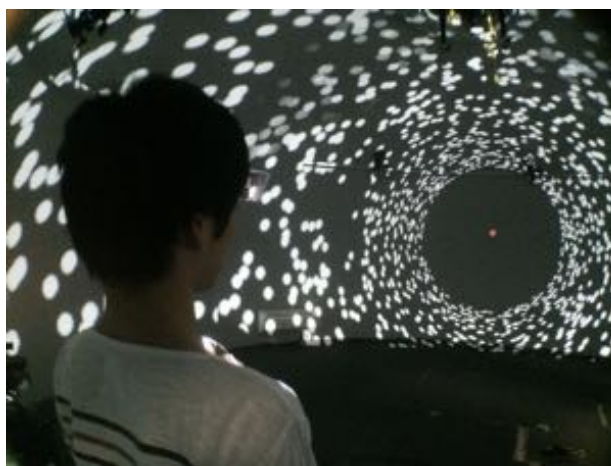


芸術家と科学者の挑戦

- 芸術家と心理学者は、このブラックボックスを強く意識して来た存在。
- 時に、ブラックボックスの存在を改めて突きつけて、我々を啓蒙したり、なんとかブラックボックスを超克出来ないか？と試みる。
- しばしば、愛によって。



私がベクシヨンをやっている訳



ものを考えたり、感じたり、知覚したりできる仕掛けの機械があると
する。その機械全体を同じ割合で拡大し、風車小屋の中にでも入るよう
にその中に入って見たとする。だがその場合、機械の内部を探って、目
に映るものと言え、部分部分が互いに動かしあっている姿だけで、表
象について説明するに足るものは決して発見できない。



ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ
『モナドロジー』 1714年

おすすめ動画

- NHKスペシャル「人工知能 天使か悪魔か 2017」
- NHKオンデマンドで配信中！

